

# 学校一礼

～自分を・人を・場を

『考える子』～

## 明けまして

### おめでとうございます。

令和4年を迎え、令和3年度もあと3ヶ月となりました。本年も、よろしくお願ひします。

冬休み明けの集会は、久しぶりに全児童を体育館に集めてすると決めていたのですが、こにきてコロナウイルスの感染が一気に拡大してきていることから、またしても放送で実施することとしました。集会では以下の内容で子どもたちに話をしました。

「寅」という文字には、「まっすぐに伸びる、ひっぱる」という意味がある。そこで「寅年」は、「春が来て、根や茎が成長する時期」「草木が伸び始める時期」と言われている。つまり、「寅年」は、「物事の成長が目に見えて始まる年」だということ。

伊倉小のみなさん一人一人が、去年までに少しずつ積み重ねて、身に付けてきたことを土台にして、さらに成長する一年にしてくれたらうれしいと思っている。

学校全体としても、さらに成長する一年にするために、伊倉小の自慢の行動を一つ増やしたいと思っている。それは「自分からのあいさつ」。伊倉小のみんなのあいさつは悪くない。かなりいい。でも、もっと高まると思っている。「自分からのあいさつ」、これを高めて、自慢の行動にしたい。

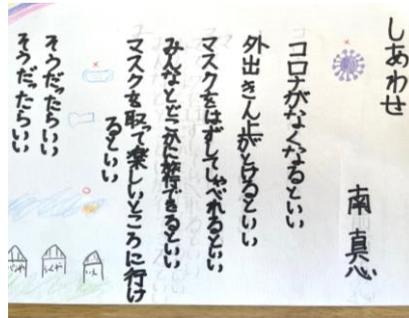
伊倉小と言えば「横断歩道での感謝の行動」と「自分からのあいさつ」と言われるように、さっそく今日から考えて行動してほしい。

## 1月の正門掲示板

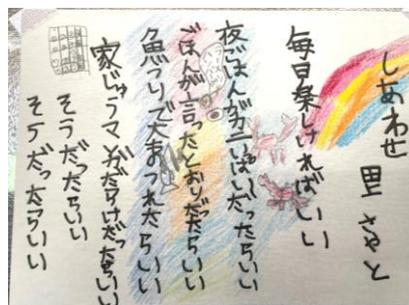


1月の正門掲示板には、担当の堀尾先生とイラストクラブの子どもたちによるオリジナルの楽しい羽子板が並びました。「お正月」の歌に出てくるように、正月の子どもの遊びの定番の一つだったのですが、今の子どもは「羽子板って何？」なんだそうです。こま回しも凧あげもほとんど見なくなりました。

## 発想・表現豊かに

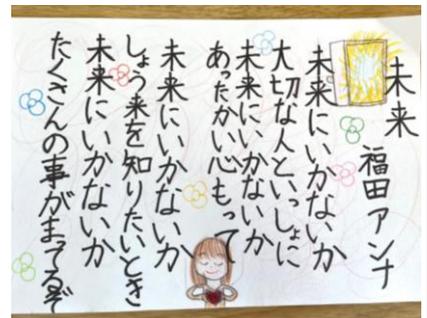


やはり授業が始まると、学校に活気が戻ってきます。授業を巡回していると、様々な場面に遭遇します。

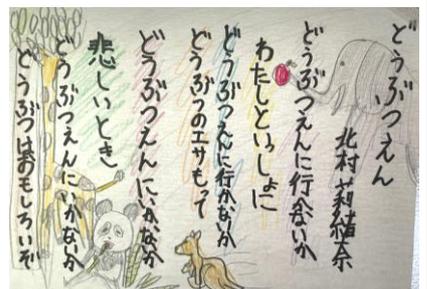


年明け、4年生は詩の学習をしていました。この詩は、完全にオリジナルで創るのではありません。一

定の型が示されていて、一部に自分の発想で言葉を入れ込んでいくものです。自由な表現のスペースは限られて



いますが、それを存分に使って個性豊かな表現があふれています。作者である子どもを知っているから、さら



に一人一人の作品が楽しくてたまりません。6年生の階段掲示板にも、楽しい「冬の一句」がたくさん並んでいます。

冬の朝 ふとんと対決 勝てるかな  
中川 奏汰  
もち焼けた しょうゆかきな粉 もち冷める  
竹下 春仁

紹介したいことがいっぱいですが、紙面が足りません。今回はここまでです。

※学年別学び発表の一環として、今週は1年生と2年生がそれぞれ「親子交流会」を予定していました。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大の状況により、中止することとしました。残念です。今後、感染状況を見ながら実施、延期、中止の判断をしていくことになると思われます。ご理解とご協力をお願いします。